



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 226

2015/07/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 自然にひそむ美しさ

02. 虫がモチーフになった帯留



今月の一枚



Photo

「みどりの村の仲間たち」

表紙写真・文／福田春美

いよいよ夏本番。みどりの村はさわやかな木々の緑に包まれ、日毎にその色が深くなってきました。鳥は元気に飛び回り、セミやチョウ、ハチなどの昆虫たちもさかんに活動しています。散歩をすると、ときにはへびの姿を見かけることも。みどりの村のさまざまな仲間たちに会えるこの時期は、遠足などでここを訪れる子ども達も多いです。夏休みにはキャンプに来る家族連れもたくさん。

にぎやかな夏の気配を感じて、ひとときわ嬉しそうにしていた、ヒグマ「美幌」なのでした。

Event. 今月のイベント

企画展「寄贈資料展」 ～7月5日（日）

博物館講座（歴史編）「粘土をこねて土器をつくろう」 7月4日（土）

プチ工房「星の☆プラバンブローチ」 7月9日（木）,16日（木）

博物館講座（芸術編）「美幌の土で絵の具を作ってみよう」 7月11日（土）

モノ作り講座 夏休みスペシャルバージョン①「液体万華鏡をつくろう」 7月25日（土）

Information. 参加者募集

プチ工房 「星の☆プラバンブローチ」

● 7/9（木）,16（木）10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室
●材料費（100円）●城坂結実（美幌博物館）●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座（芸術編） 「美幌の土で絵の具を作ってみよう」

● 7/11（土）9:30-12:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（200円）,エプロン,手ふき ●福田春美（美幌博物館）●美幌博物館へ電話申込み（7/10まで）。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。定員16名。

モノ作り講座 夏休みスペシャルバージョン①「液体万華鏡をつくろう」

● 7/25（土）【午前の部】10:00-12:00,【午後の部】14:00-16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（500円）,万華鏡に入れたいものがあれば（直径1cm以内）●福田春美（美幌博物館）●美幌博物館へ電話申込み（7/1-7/24）。対象は小・中学生、小学3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員16名。

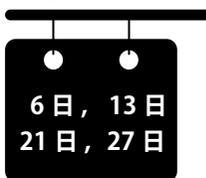
モノ作り講座 夏休みスペシャルバージョン②「ビー玉迷路をつくろう」

● 8/7（金）,8/8（土）10:00-12:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（300円）,お菓子などの紙製の空き箱一つ（大きさ25×30cm,高さ8cm程度のもの）●福田春美（美幌博物館）●美幌博物館へ電話申込み（7/1-8/6）。対象は小・中学生、小学3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員16名。

博物館講座（自然編） 「身近な自然からの贈り物 ～不思議と感動に満ちた昆虫の世界～」

【講演会】 ● 8/9（日）9:30-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●大場信義（大場蛭研究所）●美幌博物館へ電話申込み（7/1-8/7）。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。講演会終了後、特別展の見学を行います。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

自然にひそむ 美しさ

写真・文／福田春美



道端で簡単に拾える松ぼっくりは、その形の美しさから静物画のモチーフとしてよく利用されています。さあ、自分でもさっそく描いてみようとお観察してスケッチをすれば始めると…あら、これがなかなか難しいのです。なぜなら、規則的な網目状に並んでいると思っていた鱗片（りんぺん）が、少しずつずれ、不思議な並び方をしているからです。

同じように、美しくも難しいモチーフといえば、パイナップルとひまわりの花があります。どちらも、丸の中に格子を描けばそれらしく見えますが、よく見ると松ぼっくり同様、うろこ状の模様や種が、一筋縄ではいかない配置になっています。一体これは何なののでしょうか？

そのカギを握るのが「フィボナッチ数列」と呼ばれるものです。ごく簡単に説明すると、これは「1、1、2、

3、5、8、13、21、34、55…」と続き、「隣り合う数字の和が次の数になる」という規則を持つものです。実は、自然界にはこの数列を構成する数がたくさんひそんでいます。

試しに手元にある松ぼっくりの鱗片の並びをよく見てみると…時計まわりのらせんが8本、逆時計まわりが5本の配列になっているではありませんか。いくつか数えてみましたが、偶然ではありませんでした。ひまわりの種にいたっては、きちんと調べると21本や34本、大きな花だと55本や89本のらせんが確認できるそうです。

自然の造形がなんとなく美しいのではなく、そこに数列が隠れていたとは驚きです。そしてこんな豆知識があれば、次は松ぼっくりもパイナップルもひまわりも！？上手にスケッチできるかもしれません。



虫がモチーフに なった帯留

写真・文／鬼丸和幸

帯留…着物を着る時に、帯を締める時に使用する「帯締め（ヒモ）」に通す装身具です。着物を着る機会が少なくなってきたこともあり、帯留を知らない方も、いらっしゃるかもしれません。

もともと帯留は、幕末から明治初期にかけて、芸者衆の間で流行したとされています。芸者衆は、客の男性の刀装具や煙草入れなどを、帯留に作りかえて、用いたりしました。明治に入り、廃刀令が出ると、不用になった刀装具を材料にして、帯留の使用が盛んになりました。明治25年頃から、ヒモに通す形式の帯留が現れて流行し、帯留は、帯を固定するという本来の役目から、身を飾る装身具へと変わっていききました。

帯留の飾りを見ると、昆虫がモチーフになったものが少なくありません。チョウ、トンボ、スズムシ、セミ、タ

マムシ…どれもが色彩豊かで、目を引きます。また、その形状は、緻密に創作されたものが多く、美術工芸品としての価値もあるかと思います。

女性が、おしゃれグッズとして、肌身近くで利用した帯留。その帯留のモチーフにされていた昆虫。昆虫を、身近で魅力ある存在として、大切に思っていた日本人の心が見えてきます。

8月2日（日）から開催予定の特別展「すてきな昆虫たち」では、昆虫がモチーフになった帯留、陶器、工芸物、衣装、虫かご、絵画をはじめ、昆虫の実物標本や写真、模型など展示して、昆虫が持つ魅力について楽しんでもらおう考えています。お楽しみに。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



小学生の頃、お菓子として登場した「ベビースターラーメン」。当時 20 円のこのお菓子をポケットに入れ、よく遊びにいったものでした。40 年経ち、最近では残業時に、かかせないつまみになりました。最近のものは、ピーナッツが入っていて、味のアクセントが効き、あの頃と同様、止められなくなっていました。(鬼丸)